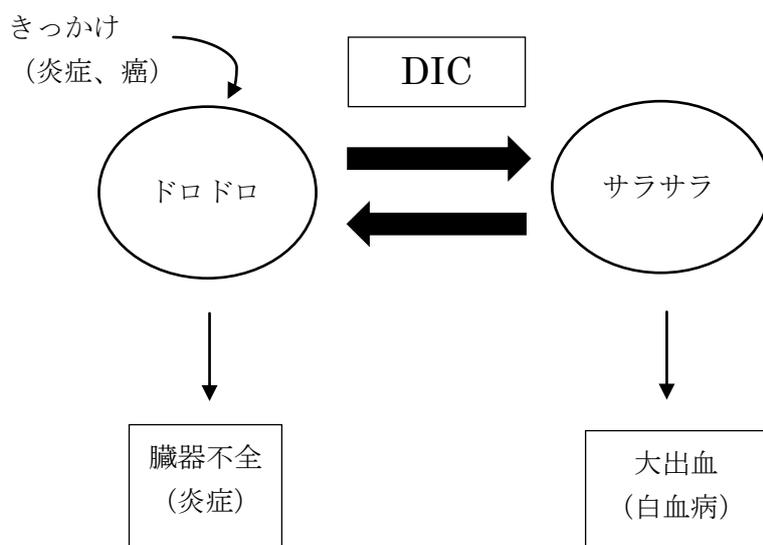


## ②③播種性血管内凝固症候群（DIC）について知る

本病態を説明するのは難しいです。それは凝固と抗凝固という、相反する減少が相次いで起こることから、病態像をとらえにくいということにほかなりません。わかりやすく簡単に申し上げますと、DICの出発点は、「何らかの原因で血液が過凝固（ドロドロ）状態になる」ことであり、ほとんど例外はありません。‘何らかの原因’の多くは、敗血症ややけどなどの「強い炎症」と血液癌に代表される「腫瘍の中の物質」です。ドロドロになると血管が詰まってしまいます。最も詰まり易いのは、太い血管よりは細い血管です。最も細い血管を毛細血管と呼び、これは手の先足の先、臓器の中に存在します。実際に問題となるのは多くの臓器機能が失われてしまう（多臓器不全、たぞうきふぜん）ことなのです。すると生体は当然のことながらこれを防ごうとします。よってできる限り血液をサラサラにしようとして、作用反作用（やられたらやり返す）みたいな考えで良いと思います。DICは血液がドロドロになる力と血液をサラサラにする力のバランスがどちらに傾くかによって病態が異なります。一般的には、強い炎症の場合、ドロドロになる力が強く、癌に伴う場合はサラサラになる力が強いです。特に白血病に伴う場合は、サラサラになる力が極めて強く、多臓器不全よりも大出血のほうが問題となります。



このようにDICは恐ろしい病態です。ただでさえ血液の少ない（血小板の少ない）血液疾患患者様ですから、このような病態が起こると命の危険にさらされます。DICを治すには、「きっかけ」を絶つしかありません。それが炎症であれば炎症を鎮める、白血病であれば、早く治療するというものです。急性白血病と診断された場合に、医師から「一刻も早く治療しなさい」と言われた場合、このDICに罹患している可能性があります。その他治療の補助として、ドロドロとサラサラをうまくコントロールするためのお薬がありますので、適宜使用しております。